11. 理工学部

（　分析項目Ⅰ　教育活動の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26　）

（　分析項目Ⅱ　教育成果の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27　）

分析項目Ⅰ　教育活動の状況

〔判定〕　相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

○　徳島大学大学院先端技術科学教育部への進学を希望する学生について、３年前期終了時までの成績（GPA）状況により、６年一貫カリキュラムに移行することを認めている。学部での基盤教育をいち早く応用に結びつけることができるとともに、卒業研究から修士論文研究までの一環実施による効果的な研究・教育体制を実現、また、学部に在籍しながら大学院の先取り科目の受講が可能となるため、大学院在籍時に自由な時間が確保でき、研究、留学、インターンシップ等、選択肢の幅が広がる。なお、平成 31 年度に初めて選抜を実施し、理工学部全体で 32%の学生が当該カリキュラムを志望し、179 名を承認した。

○　職業を有している学生を対象に、標準修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認め、その在学期間中の授業料の負担を軽減する長期履修制度を導入している。平成 28 年度に２名、平成 29 年度から平成 31 年度まで各年度に１名が当該制度による修学が認められている。

○　大学入学後の学生に対して、競争意識を継続して維持し、学びへの動機を保たせることを目的として、１年次終了時に入学後の成績と学生の志望に基づいて履修コース・系を決定する経過選択制を導入している。入学時に仮配属されたコースにおける１年間の学修を通して自身の適性を見直し、希望により、２年進級時に本配属を変更できる仕組みであり、一人一人の学生にマッチしたコース配属が実現できるよう、クラス担任や履修相談室がコース配属の相談に応じている。

○　理工学部では、より専門知識を修得するために、自分の研究分野だけでなく、他コースの専任教員による指導を希望する学生について、所属コース・系と当該関係教員による複数指導体制、分野横断型の卒業研究を履修することができる体制を整備している。学部教育の段階で、高度専門職人材を養成するための教育体制であり、令和２年度に設置した大学院へのシームレスにつながる制度となっている。

分析項目Ⅱ　教育成果の状況

〔判定〕　相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。